

<h1>HOMAS</h1> <p>日本語版 ニューズレター</p>	<p><b>No. 50</b> 平成19年(2007年)3月26日発行 北海道・マサチューセッツ協会 会長 森本 正夫</p>
<p><i>Hokkaido Massachusetts Society</i> <b>北海道・マサチューセッツ協会</b></p>	<p>発行所 〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目 道庁別館12階 TEL011-231-3392 FAX 011-231-3666 発行人 中垣 正史 E-mail: homas @ siren. ocn. ne. jp</p>

北海道近代化の幕あけー国際交流の原点

## 日本最初の米国人英語教師ラナルド・マクドナルド ー焼尻・利尻から宗谷・松前を経て長崎へー鎖国日本の扉を開く新しい風となるー

鎖国日本の蝦夷地警備として、幕府は、津軽藩・会津藩などから、国後・択捉・宗谷に請負人・番人を配備、また箱館奉行所の役人を宗谷場所に出張させるなどして嚴重警戒にあたりました。1804年(文化元年)9月、ロシア遣日特派大使ニコライ・レザノフがナデシュダ号で長崎へ入港し、幕府に対して根室の通商許可を要求しましたが、幕府は、約半年後に通商不許可を通告しました。その後、幕府の拒絶態度にいら立ちを強めたロシア艦の度重なる攻撃が続きます。ロシア艦は、樺太大泊・千島択捉・利尻島などを襲い、火を放ち、番人を捕え連れ去ることをくりかえしましたが、1813年(文化10年)、日本側が捕えたロシアの艦長ゴロヴニンの釈放により、日露関係は平静化したといわれます。

一方、この頃、欧米の捕鯨船が、高価な香料が得られる抹香鯨、ローソク・灯火用の油・機械の潤滑油・鯨鬚など多方面の用途で莫大な利益が得られる鯨を求めて太西洋から太平洋、さらに日本近海にまで出漁するようになります。特に、アメリカ捕鯨船が多かったのですが、イギリス船・ドイツ船・フランス船も次第に漁場を移して、蝦夷地沿岸・千島方面にまでやってきています。そして、薪・飲料水・食糧を求めて、着岸する外国船が年々激増してきました。これに対して、幕府はその後、薪・水・食糧を与えて穏便に退去させるよう指示していましたが、鎖国政策を守る幕府と通商を強要する捕鯨船との間に、いたるところで紛争が起きていたといわれます。このころ、アメリカの捕鯨船に乗り、日本海での捕鯨に従事し、強い憧れを持ち続けた神秘の国日本への密入国を企てたアメリカ青年がいました。

### 神秘の国日本への憧れを抱いたラナルド・マクドナルドの生い立ち

ラナルド・マクドナルド(1824～94)は、1824年(文政7年)2月3日、米国太平洋岸のコロンビア川河口の英国領フォート・ジョージ(現在オレゴン州アストリア市)で生まれています。父アーチボルト・マクドナルドは、1790年スコットランド生まれで、エディンバラ大学を卒業しています。当時、高級品とされたビーバーの毛皮などを主とする英国の毛皮交易会社ハドソン湾会社フォート・ジョージ交易所に勤務していました。特にビーバーの毛皮は貴重品としてきわめて高い

### 北海道を知る歴史発見の旅シリーズ・マクドナルドの故郷を訪ねるー2007 アメリカ西海岸の旅 参加者募集

今回は、北海道歴史発見の旅シリーズ海外篇として、米国西海岸のマクドナルド・三吉(音吉・久吉・岩吉)ゆかりの地を米国「マクドナルド友の会」ジム・モックフォード会長と一緒に訪問すること、札幌の姉妹都市ポートランド市市長表敬訪問をすることをメインとして企画しました。また、ボーイング社・マイクロソフト社なども見学する予定です。

期 日 2007年10月16日(火)～21日(日) <6日間>

日 程 シアトル(ボーイング社工場、マイクロソフト社、他)・アストリア・バンクーバー(マクドナルド&三吉に関わる見学と交流)・ポートランド(市長表敬訪問、他)・ラスベガス(華やかなショーなど)

費 用 280,000円程度(募集人員15名) <詳細は「集要項」をご請求・ご覧下さい。>

価格で輸出され、ことに中国貿易で莫大な利益をあげていたといわれます。会社の交易事業には原住民インディアンとの友好関係が基本になっていたこともあり、父アーチボルト・マクドナルド(当時33歳)は、その地域のインディアン部族・チヌーク族の大首長コム・コムリの次女コアル・クソアと1823年に結婚したのです。結婚式は、インディアンの風習に従った盛大なものだったといわれます。翌年2月3日、ラナルドが生まれ、約1ヶ月後に、母コアルは病死しています。ラナルドは祖父コム・コムリのもとに預けられ、母の姉カー・カム・カムに育てられています。

その1年後、父アーチボルトは転勤して、スイス人とインディアン・クラー族との混血ジェーン・クラインと再婚し、ラナルドを引き取ります。ジェーンは優しい人で実の子と分けへだてなく養育したといわれます。

ラナルド9歳の時、父アーチボルトは、フォート・ヴァンクーバー(現在のオレゴン州、アストリア市の東約120km)の交易主任として栄転し、ラナルドは初めて学校(1933~1934)に入ります。2年後、ラナルドはさらに上級教育を受けるため、両親と別れて、レッド・リヴァー・アカデミー(現在カナダのマニトバ州ウイニペグ)で4年間過ごし、優秀な成績で卒業しています。ラナルドが伝え聞いていたかどうかははっきりしませんが、その頃ハドソン湾会社では、三人の日本人漂流民の風貌がインディアンに似ていたこともあり、話題になっていたのです。

チヌーク族には、「祖先は遙かな海の西の彼方から来た」という伝説があり、ラナルドも子どものころから亡き母親のルーツは太平洋の神秘の国、ニッポンだと信じ、憧れを持っていたといわれます。…1834年、米国西海岸フラタリ岬に漂着した音吉、久吉、岩吉という三人の日本人漂流民が、最初インディアンの奴隷にされますが、ハドソン湾会社によって保護され英語の教育を受けることになります。この3人の日本人若者が、とても頭脳がよく勉強熱心で礼儀正しかったので、日本は高度な文明国らしいと推測されていました。

卒業後、15歳(1839)のラナルドは、父のすすめでエリー湖北岸カナダのセント・トーマスのモンリオール銀行に見習いとして就職します。セント・トーマスは、それまでのインディアン混血児の多かった地域とは異なり、白人の町でした。ラナルドは、白人社会の中で、自分が混血児であることにより決定的な侮蔑の対象になっていることを知り、強い衝撃と堪えがたい苦悩を覚えます。父親にも相談しますが、かえって白人社会との厚い壁がゆるがないものであることをあらためて知らされます。ラナルドは、銀行員見習期間2年の半ばにして、セント・トーマスを去ります。

ラナルドは、カナダの白人社会での苦悩を耐え忍ぶよりは、広い世界でもっと自由に活動したいと願ったようです。1841年、ミシシッピ川を下る蒸気船の甲板員となり河口のニューオーリンズへ行きます。17歳のラナルドは、船員として生活したいと考え、ニューヨークに出て港湾作業に従事して働き、その後は、船員としてロンドンから出航して、インドのカルカッタで胡椒を荷積みする船、アフリカ西海岸から奴隷を積みこんでアメリカ大陸へ向う船などに乗り組むなどさまざまな経験をしています。その後、ニューヨーク港で、捕鯨船プリマス号(3本マスト・425トン)の甲板員に雇ってもらいます。船は、1845年12月6日、ニューヨークを出航、操業をしながら、南米最南端ホーン岬をまわって、ハワイ諸島の港に寄港して、1847年1月20日ハワイのホノルルに入港します。

### **インディアンの先祖の国…ラナルドの日本への憧れ**

ラナルドは、船乗りたちが日本を神秘の国、東洋のユートピアと称しているのを知り、また他国人の血のまじらない純粋な血を受け継いできた民族で、欧米の強国を相手に少しも動ずることのない誇り高い島国として、日本への思いをひそかに内部に蓄積していったようです。

1845年(弘化2年)3月15日、米国捕鯨船マンハッタン号が、日本近海の鳥島で漂流していた阿波国撫養港(徳島県鳴門市)の大型廻船幸宝丸の11人を救助し、さらにその翌朝、漂流していた釜石港の千寿丸の11人を救助して、4月17日浦賀港に入港、20日に日本に上陸させています。薪・水・食料・謝礼の品を受け取り21日に出港しています。この時、浦賀に滞在したクーパー船長は幕府と交渉をもった(通訳は、オランダ通詞森山栄之助)最初のアメリカ人といわれます。この時は、幕府は漂流民の上陸を許可しましたが、「今後はオランダ・中国以外からは一切受け入れない」というオランダ語の文書をクーパー船長に渡しています。このような経緯が、後にハワイに戻ったクーパー船長の談話として、捕鯨船の海員誌「ザ・フレンド」(1846年2月)に「クーパー船長日本訪問談」が掲載されていました。

ハワイで捕鯨船に乗り込むのを待っていたラナルドは、この記事のことを知り、はじめて日本についての詳しい情

**参考** アメリカに最初に上陸した3人の日本人、音吉・久吉・岩吉<三吉>の数奇な運命

1832年(天保3年)11月11日、鳥羽から江戸へ向かって米や陶器を積んで出港した「宝順丸」(現在の愛知県知多郡美浜町小野浦の樋口源六の持船)が、遠州灘で大暴風雨に遭遇し、約14ヶ月太平洋上を漂流の末、1834年3月、米国西海岸、現在のワシントン州のフラタリ岬に漂着しています。乗組員14名中、音吉(14歳)、久吉(15歳)、岩吉(28歳)の3人だけが生存していました。この若者3人は、アメリカに上陸した最初の日本人(ジョン万次郎よりも7年前)といわれますが、その後、数奇な運命をたどることになります。最初、現地のインディアンマカ族に捉えられ奴隷にされますが、幸いにもバドソン湾会社の現地責任者ジョン・マクラフリンに助けられて、フォート・バンクーバーで宣教師から英語教育を受ける機会を得ました。その後1835年6月、イギリス船イーグル号でハワイ、ロンドンを経由して日本へ送還されることになりました。マクラフリンは、漂流民を日本へ送り返すことによって、英国と日本との交易のための開国交渉を期待していたようです。途中マカオに滞在して、ドイツ人宣教師の聖書の日本語訳を手伝って1年がかりで完成させています。1837年アメリカ船モリンソン号で帰国しようと思いますが、浦賀・鹿児島で幕府軍の砲撃を受けて鎖国日本への入国を果たせず、再びマカオへ引き返しています。

彼等はその後、永年マカオに住みますが、音吉は上海に移り住んで、1843年(26歳の時)イギリスのデント商会に就職、イギリス人女性と結婚します。絶えず漂流民の日本帰国を援助したといわれます。音吉は、イギリス海軍の通訳として、2度(1849年浦賀、1854年長崎)、日本を訪れています。しかし、妻子もあり帰国の意志はなかったようです。1854年日英和親条約の締結には通訳者として大いに貢献しました。彼は、この時すでに英国市民権も得てかなり裕福な生活をしていました。その後イギリス人妻が病気で亡くなり、後にマレー人女性と結婚し、1862年シンガポールへ移住。1864年、音吉はジョン・マシュー・オットンとしてイギリスに帰化(日本人最初)。その3年後の1867年1月19日、49歳で波乱に満ちた生涯を終えました。シンガポールプキティス地区のイギリス人墓地に埋葬されています。

(注)バンクーバー国立史跡公園内に「三吉顕彰記念碑」(1889年8月建立)が日本ボーイスカウト兵庫連盟から寄贈されています。

報を得て、いよいよ、真剣に「日本へ行きたい」と考えるようになったのではないかと推測されています。日本へ行くにはどうすればよいかと考えて、日本近海の漁場にむかう捕鯨船を探します。そこで、ラナルドは日本へ行く準備として、英語の辞書・文法書・イギリスの歴史書・世界の地理書などを買い整えました。日本で、自分を教養のある人間として英語の教師として雇ってもらうことを強く期待していました。そして、プリマス号のエドワーズ船長に再会して、雇用契約を結び、航海の計測に必要な四分儀と航海暦も買い求めて、日本近海への出航に備えていました。

1947年秋、プリマス号はハワイを出航、マリアナ諸島・グアム、バタン島、香港を経由して日本近海に向かっていきます。1848年(嘉永元年)3月から6月にかけて日本海で捕鯨を続けながら樺太西方の海まで北上します。ラナルドは遥かに遠く波間にかすむ、神秘的な日本の島影に胸の高鳴りを覚えます。6月27日、ラナルドは、長年練ってきた潜入計画を実行に移す決意をし、船長との約束に従って譲り受けたボート(リトル・プリマス号)に書物・文房具・食糧・衣類・四分儀などの荷物を積み込み、いよいよ日本国の小島を目標として、母船を離れました。

**ラナルド・マクドナルド日本上陸……焼尻・利尻・宗谷・松前そして長崎へ**

ラナルド・マクドナルド(24歳)が最初に焼尻島に上陸したのは、1848年(嘉永元年)6月27日でした。彼は高台に登って、この島を無人島と判断しました。数日滞在后、漂流を偽装するためにわざとボートを転覆させて、7月1日に利尻島上陸を目標としました。そして、翌日2日朝、計画通り漂着を装って利尻島上陸に成功した彼は、捉えられはしたものの、アイヌや番人の人びとから食べ物・衣服・寝具の提供など丁寧な扱いを受けたといわれます。中でも利尻運上屋(交易所)の番人タンガロ(多次郎)とは言葉を教えあいお互いに親密な友情を覚えるまでになりました。やがてタンガロに伴われて7月下旬宗谷勤番所に送られます。そして、7月26日宗谷を出帆しますが、風向きが悪く15日間もかかってやっと8月10日に松前に入港し、北方の江良町村に護送されます。松前藩では、ラナルド・マクドナルドの長崎護送について慎重な準備をすすめます。幕府の沙汰を待って、9月5日松前藩の御用船「天神丸」に乗せられて、松前を出帆し、日本海岸ぞいに南下しました。

順風を受けて9月16日に長崎港に到着しています。まず、長崎奉行所の取り調べを受けた後、奉行所に近い大悲庵(崇福寺末庵)を改装した座敷牢に収容されますが、良い待遇を得ています。接見した長崎奉行井戸対馬守は、マクドナルドの誠実な人柄や教養の深さを知り、彼が英語教師として適任であると考え日本人通詞の指導を依頼したのです。この頃の国際情勢としてはオランダ通詞だけでなく英語通詞の養成が急務とされる事情がありました。こうして、日本最初の英語教育が行われることになりました。生徒は、奉行所から選ばれた、森山栄之助(1820-1871、当時28

歳)ら 14 名のオランダ通詞でした。マクドナルドは座敷牢の格子を隔てて、約 7 ヶ月間通詞たちに英語を教え、自らも「英和単語帳」を作るなどして、熱心に日本語の勉強をしたといわれます。マクドナルドの「日本回想記」によれば、これら 14 名の生徒は、頭がよく理解が早かったそうで、最前列に座っていた森山栄之助(1853 年ペリー来航時の幕府の大通詞)は、最も優秀であったようです。これらの通詞たちは、幕末から明治初期にかけて、日本の開国にむけて貴重な存在として活躍することになります。このように、マクドナルドの苦心の入国は幸いにも徒労に終わらなかったのですが、密入国者として 10 ヶ月ほど監禁状態で過ごした後、長崎から退去させられます。

### **丁寧な待遇を受けた日本に「soinara」(日本語のサヨナラ)・・・ラナルド帰国・放浪の人生**

1849 年(嘉永 2 年)4 月 26 日、長崎に入港していたアメリカ軍艦プレブル号に他のアメリカ漂流民 13 人とともに引き渡され、帰国することとなりました。日本での日本人のマクドナルドの扱いは、終始丁寧なものでした。それは、マクドナルドが非常に礼儀正しく教養のある人間として遇され、彼自身も日本語の勉強に熱心であり、日本を深く理解しようとしていたからです。マクドナルドは、後年、長崎の監禁生活中の「日本最初の英語教師」の体験を誇りと満足をもって終生忘れることの出来ない思い出としてふりかえています。

マクドナルドは、プレブル号のグリーン艦長に、日本滞在の供述書を提出しています。(これが米国国会上院の公式記録として残ることになります。)日本退去後のマクドナルドは、上海・マカオ・シンガポールなどの寄港地を経てインド洋上マダラス沖で難破するなど多難な航海の後、オーストラリアメルボルン近くの金鉱掘りに従事するなど放浪を続け、1853 年 1 月、29 歳の時に帰国しています。すでに父はなく、義弟との牧場経営や、鉱山業に関わる仕事を転々としていたようで、1860 年代半ばから 80 年代半ばまでのことははっきりしていません。この間に、マクドナルドは、かつてセント・トーマスで体験したような激しい人種差別をもう一度味わされたのではないかと推測されています。彼は「ひどい幻滅」を感じて、親族や友人とも音信を絶ち、自らの殻ことじこもり、転々と職や住居をかえていたと思われます。1882 年ころになって米国ワシントン州に移り、その後、フォート・コルヴィルに定住しています。そこに粗末な小屋を建てて住み、旧友マクラウドとの交友も復活して、彼の手許に保管されていた自分の日本滞在当時の覚え書などをまとめて出版することに情熱を傾けるようになります。しかし、マクドナルドの晩年の情熱は報われることなく、彼は「日本回想記」の出版を見ないで 1894 年 8 月 5 日、米国ワシントン州トロダの近くで、70 歳の生涯を閉じたのです。彼は、姪ジェニー・リンチの腕の中で「サヨナラ、マイディア、サヨナラ」と日本語でつぶやいて永遠の眠りにについています。

マクドナルドの生涯は、人種差別の負い目を背負っての 12 年間の世界放浪と、20 年間にわたる国内放浪を経験した後、生まれ故郷にもどり、あらためて自分の「世捨人の殻」を破り、晩年になって自らの人生のハイライトの部分を再確認したかったのだと思われます。

### **ラナルド・マクドナルドを記念するもの**

- ① ラナルド・マクドナルド「上陸記念トーマスボール」( 焼尻島白浜海岸 ) 昭和 62 年 6 月 27 日設置
- ② ラナルド・マクドナルド顕彰碑 ( 利尻富士町鷺泊字野塚 ) 平成 8 年(1996)10 月 23 日建立  
\* 利尻町立博物館・マクドナルドに関する展示コーナー ( 利尻町仙法志字本町 )
- ③ 史蹟「宗谷護国寺跡」( 稚内市宗谷 )
- ④ ラナルド・マクドナルド顕彰之碑 ( 長崎市上西山町松森神社脇 ) 平成 6 年(1994)11 月 11 日建立
- ⑤ ラナルド・マクドナルド墓地記念碑 ( 米国ワシントン州 トロダ、Ranald McDonald's Grave State Park )
- ⑥ ラナルド・マクドナルド生家および記念碑 ( 米国オレゴン州 アストリア ) 1988 年 5 月 21 日建立
- ⑦ チヌーク族大酋長の墓・マクドナルドの祖父の墓 ( 米国オレゴン州 アストリア )
- ⑧ インディアンチヌーク族の伯母さんの像(イルチー像) (米国オレゴン州 バンクーバーのコロンビア川沿い)
- 日本マクドナルド友の会(会長・富田虎男立教大学名誉教授、事務局長・西谷栄治利尻町立博物館学芸係長)  
「マクドナルド通信」発行

■ 米国マクドナルド友の会（ 現在会長は、ジム・モックフォード氏 ）

（ 創立は、富田正勝エフソポートランド社長故人・元アストリア図書館長ブルース・バーニー氏ら ） 1988 年

（交 流）

- \* 1998 年 9 月、マクドナルド日本上陸 150 年を記念して、米国マクドナルド友の会メンバー5 名が来日し、利尻・松前・長崎（長崎マクドナルド友の会）などゆかりの地を訪問。中野 昭氏、フレデリック・ショット氏 他
- \* 1999 年 6 月、日本マクドナルド友の会事務局長・西谷栄治氏、米国オレゴン州 アストリアの生地やワシントン州 トロダの墓地などを訪問。

（英語教科書にも採用される）

啓林館高校英語教科書 1 年用教材 Lesson 1 「Crossing the Bridge between Language」

同 中学校英語教科書 3 年用教材 Reading for Pleasure 「The First English Teacher in Japan」

<参考文献及び参考資料>

- ・マクドナルド「日本回想記」(富田 虎男訳) 刀水書房
- ・「海の祭礼」(吉村 昭著) 文春文庫
- ・「黒船前夜の出会いー捕鯨船長クーパーの来航」(平尾信子著) NHKブックス
- ・羽幌町焼尻支所資料
- ・利尻町立博物館資料(西谷栄治氏提供)
- ・稚内市史資料
- ・松前町史資料(田中建一氏提供)
- ・長崎歴史文化博物館資料(松尾 晋一氏提供)
- ・長崎南ロータリークラブ資料
- ・城陽市国際交流協会資料
- ・日本ボーイスカウト兵庫連盟資料
- ・北海道新聞記事
- ・読売新聞記事、
- ・その他インターネット資料など

## 平成 18 年度第 3 回 国際交流ランチセミナー 記録（抄）

テーマ 「新しい国際交流を求めて」～異文化理解のふれあい～

日 時 平成 19 年 2 月 17 日(土) 10:30～13:00

場 所 KKR ホテル札幌 2F レストラン「マイヨール」

<ゲスト> スティーブ	サククス	(アメリカ)	札幌市教委 ALT	(M)
ジョセフ	サムエル トマシ	(アメリカ)	北大留学生 (UMASS)	(M)
ロザン	ダニエル	(アメリカ)	小樽商大留学生	(F)
ステファニー	ダーデン	(アメリカ)	小樽商大留学生	(F)
ジェナ	フェイファ	(アメリカ)	小樽商大留学生	(F)
マーク	ブラウン	(イギリス)	札幌市教委 ALT	(M)
ヒュー	ツイ	(アメリカ)	札幌市教委 AL	(M)

概要: この国際交流ランチセミナーは、マサチューセッツ州とのつながりに基本理念を置き、2001 年(平成 13 年)から、広く多国籍の北海道在住外国人をゲストとしてお招きして、国際交流や異文化理解の問題を論じ、会員同志の意見交換・交流の場にもなることを目指しています。すでに 18 回開催しています。

今回は、札幌市教委 ALT 3 名、北大留学生 1 名、小樽商大留学生 3 名で、合計 7 名のゲストをお招きして、すばらしい国際交流の時間を共有していただきました。ここには、ゲストのショートスピーチのみをご紹介します。今回の参加者は合計 35 名。( 通訳: 当協会会員・岩崎 修子さん )

## 1 **マーク・ブラウン** (イギリス) 札幌市教委ALT

皆様、おはようございます。奇妙なことに、私はこの会に参加するときはいつも風邪をひいているようで、申し訳なく思います。本日お招き頂きましてありがとうございます。

私は札幌には、去年の8月に参りまして、いろいろな人と出会い、楽しく過ごしております。もう6カ月になりますね。私は、英国のロンドン出身です。札幌東商業高校で西先生とともに英語を教えています。今日は私の生徒も3人、こちらに出席しています。生徒は千人以上もいて、それほど簡単な仕事ではありませんが、毎日が新鮮で楽しいです。こちらに来ましてから、日本語を習っています。週に2回、日本語教室に通っていますが、私の日本語でせつかくのひとときをぶちこわしにたくありませんが、でも、まあ、少し話してみましようか。(日本語で) - 「私は毎週2時間、日本語を勉強します。でも、今、まだ下手です。すみません。」 -

ほんとは皆様おひとりおひとりとお話したく思っています。皆様方の経験とか、何が好きであるとか、どこ出身でまたどこへ行きたいと思うか、などを知りたいと思います。また私の夢や感動などもお話したいと思います。私の夢のひとつは、日本に来ることでした。そしてその夢は本当に叶ったのです。皆様方の夢も叶いますようにぜひ頑張ってください。ありがとうございました。

## 2 **ロザン・ダニエル** (アメリカ) 小樽商大留学生

こんにちは。ロザン・ダニエルと申します。小樽商大の留学生で、去年の9月に日本へ来ました。こちらでの滞在をとっても楽しんでます。

私の故郷ジョージア州(米国南東部の州、フロリダ州の北。州都はアトランタ。人口約868万人。「風とともに去りぬ」の舞台となったところ)では雪はほとんど降らないものですから、これが私の経験する初めての冬という事になります。私にとりましては大きな変化ですが、徐々に慣れてきております。アメリカでは2年間日本語を学び、そしてこちらでも日本語の勉強を続けています。日本語は難しいですが、とても面白いです。帰国するまでには上手に話せるようになりたいと思っています。これから皆さんといろいろお話したいです。

## 3 **スティーブ・サックス** (アメリカ) 札幌市教委ALT

皆様、こんにちは。スティーブ・サックスと申します。まず最初に、今日はゲストとしてお招きいただきましてありがとうございます。私はこれが2回目となります。皆様に感謝を申し上げます。

私は米国のアリゾナ州(米国南西部の州：古くは銅と綿花の生産、今日ではハイテク産業の一大拠点、人口約558万人。州都フェニックス。グランドキャニオンは有名)から来ました。アリゾナの気候はととても暑く、こちらはととても寒いものですから、冬の天候にはなかなかなじむことが出来ません。

私は北区の北陽中学校で英語を教えておりまして、とても楽しく過ごしております。もう1度、お招きいただいたことにお礼を申し上げます。皆様といろいろお話したいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

## 4 **ジェナ・ファイファー** (アメリカ) 小樽商大留学生

皆様こんにちは。ジェナ・ファイファーと申します。米国のサウスダコタ州(米国中北部の州。州都はピア。人口約76万人。岩山に彫られた4人の大統領の顔のモニュメントで有名なラッシュモア山国立公園がある)から来ました。小樽商大には昨年9月の中旬に来ました。日本語はあまり話すことが出来ません。ごめんなさい。サウスダコタの気候はこちらと良く似ていると思います。雪はこちらの方がずっと多いのですが、サウスダコタの冬はこちらより寒いです。雪が降るのはうれしいです。ええと、他に何を話したらいいのか、よく分かりません。何か質問があれば、おっしゃってください。(以下、Q & A)

Q：小樽はどんな感じですか？ A：小樽はいいところです。スノーボードがたくさん出来ますよ。小さな町ですが、札幌にも近いので札幌にもよく来ます。すばらしいところです。

Q：小樽はいろいろな特産物で有名ですが、どんなものが好きですか？ A：小樽ではガラス製品がたくさん作られています。街へ行くと、目の前で制作しているガラス工房もあって、とても面白いです。それから食べ物ではスシが好きです。

Q:サウスダコタ州の場所について教えてください。—A:サウスダコタ州は、アメリカの中西部に位置します。  
(北から)カナダ、ノースダコタ、サウスダコタ、ネブラスカと並んでいて、ロッキー山脈とアパラチア山脈にはさまれた平地です。ラッシュモア山があり、またミズーリ川が州の中央部を流れています。自然が豊かで観光名所も沢山あります。—他にありませんか? それでは、—(日本語で)「アリガトウ」—

5 **ヒュー・ツイ** (アメリカ) 札幌市教委ALT

皆様、こんにちは。今日、私が突然ここに現れたことで、皆様に驚かせてしまったのではないかと思います。私はヒュー・ツイと申します。ハワイから来ました。現在、発寒中学校で英語を教えています。ハワイから来ましたもので、あちらは暖かかったのですが、こちらの冬は違いますね。寒いですが、でも雪や、そしてスノーボードとかスキーを楽しんでいます。でも、スキーもスノーボードもあまりうまくないものですから、もしどなたか教えてくださいませんか? よろしくお願ひします。それでは何か、私に質問はありませんか?

Q:年はいくつですか?—A:何歳だと思いますか? 当ててみてください。

Q:大学生のようにみえますが、私と同じ20歳ぐらいでしょうか?—A:近いですね。21歳です。—それでは、ありがとうございました。

6 **ステファニー・ダーデン** (アメリカ) 小樽商大留学生

ステファニーと申します。ジョージア州から来ました。1年間の交換留学生プログラムでこちらに来ております。今年8月までこちらに滞在して、国際関係、そして日本語を学んでおります。

私は、これまでの日本での経験をお話したいと思います。多くの日本人の方が、どうやったら打ち解けたことができるかという方法をご存知のようです。というのも飲み会をする機会がたくさんあって、飲み会は多くの人と知り合いになるいい方法ですね。こちらに来ましてから文化大使のような気がすることもあります。飲み会を通していろいろな方々と出会えるのでとても素晴らしいことだと思います。

私は、以前フロリダにも住んでいましたが、フロリダは、空気がとてもさわやかでいいところでした。

7 **ジョゼフ・トマシ** (アメリカ) 北大留学生

皆様、おはようございます。私はジョゼフ・トマシと申します。まず最初に皆様本日はお越しいただきありがとうございました。また、私を招いていただきありがとうございます。現在、私は北大でUMASSからの交換留学生として日本語と日本文化を学んでいます。(日本語で)「日本語日本文化研修生です。」

これから、私の出身地について少しお話したいと思います。私はカリフォルニア州で生まれました。どなたかカリフォルニアのワインについてご存知でしょうか。サンフランシスコの北部サンタ・ローザで生産されますが、そこが私の生まれたところです。そのサンタ・ローザで生まれ、それから東部へ移りました。私の家族が旅行好きだったからなのですが、それでマサチューセッツに住むことになりました。アラバマ州にも住んだ事もあります。

アメリカのいろいろなところで住む機会があった訳ですが、マサチューセッツ州(米国東部の州。州都はボストン。人口約643万人)が大変気に入っております。現在、私はマサチューセッツ州立大学の学生なのですが、皆様もご存知の通り、北大とはとても強いつながりがあります。それというのも、クラーク博士はもともと私の大学から北大(札幌農学校)へやってきたからです。

こちらに来ましてから、半年になります。もうこんなに経ってしまったと悲しく思うと同時に、また嬉しくも思います。というのも札幌の暮らしは、とても素晴らしいからです。外国に住むということは、いろいろな人に出会い、世界が狭くなるということで、故郷のアメリカで考えていたときは実感が伴いませんでした。けれども、今札幌に住み、毎日いろいろな人に出会い、違う文化、違う言語の中で生活していて、毎日新鮮な驚きがあります。とても気に入っております。素晴らしい経験をしているのだと思います。ありがとうございました。

今回は、セミナーの最初にゲストの自己紹介のスピーチをしていただき、その後テーブル毎に約1時間半の会話と交流を楽しんでいただきました。

## 舞踏ダンスデュオ「偶成天」の米国ニューイングランド公演

ーポストン・アムハースト暗黒舞踏ツアーの不思議な縁ー

舞踏デュオ「偶成天」 舞踏家 森田一踏 竹内実花  
( 札幌学院大学人文学部臨床心理学科 教授 葛西 俊治 )

暗黒舞踏とは、1950年代に土方巽が創始した日本発の前衛的舞踊である。全身に白塗りを施した舞踏手が暗黒の舞台上で踊り狂い、のたうち回り、立ち尽くし、魂の奥底に至るまでその姿態をさらけ出すという点において、通常のダンスの概念を遙かに超越したパフォーマンス・アーツとして知られている。現在では、国内よりも海外での評判が極めて高く、Butohは欧米の舞踊界・美術界に大きな影響を与えて今日に至っている。そうした中、1996年に札幌で旗揚げした「偶成天」は1999年以降、年間に1~2回の海外招待公演と1~2回の国内新作発表公演を中心に活動を続け、昨年は10周年の舞踏イベントを開くに至った。そうした中、GooSayTenのサイトには英語のメールが頻繁に届く。いわく、「Butohのレッスンを受けたい」「Butohについて学びたい」と様々な国(アメリカ、カナダ、メキシコ、コロンビア、ドイツ、ポーランド、イタリア、ギリシャ…)の様々な経歴の人たちが西区二十四軒にある竹内実花 BUTOH 研究所にやってくる。

今からちょうど三年前、「会いたい」というメールが届き、真冬の日本海の荒波をフェリーでやってきたアメリカ人女性がいた。高野山で修行し、両足が壊死寸前となりドクターストップがかかった…阿闍梨の資格がある…という人だった。宗教文化人類学の専門家でポストン大学文化宗教国際事情研究所(Institute on Culture, Religion and World Affairs)の研究者、クリスタルさん(Dr. Christal Whelan)だった。一面識もない人とメールの約束だけで海外公演に出かけてしまう一踏も実花も北海道生まれ北海道育ちであり、良くも悪くも人の厚情に弱い。熱い心にも弱い。クリスタルさんの凄まじい体験に感嘆し同情し、スープカレーを食べながら夜遅くまで話し込んでいた。

そして、公演の前年、クリスタルさんからの紹介ということで、ポストン日本協会の望月典子ディレクターから舞踏公演の打診があった。同時に北海道マサチューセッツ協会を紹介され、事務局にお邪魔すると「偶成天の偶成とは中国の朱熹による漢詩の題名なのです」と事務局長の中垣正史さんから丁寧に教えることになった。「少年老い易く学成り難し」のあの漢詩である。「偶然の中で天は成る」という意味で舞踏デュオ「偶成天」を名乗っていたのだが、HOMASとの出会いそのものがまさに偶成であった。10年前の「偶成天」結成時からこうした不思議な縁が培われていたのだろうか…。「ニューイングランド・プレミアム・ツアー」は絶対に実現させなければと思った。

国際交流基金の資金援助もめでたく獲得でき、2006年11月初旬、シカゴでのセキュリティチェックの厳重さと乗り継ぎトラブルに見舞われながらも、とうとうポストンに降り立った。舞踏家二名、NPO法人「コンカリーニョ」理事で照明・舞台監督の高橋正和氏、総勢三名の精鋭部隊である。海岸にきらめくガラス張りの超近代的「ポストン現代アート研究所ホール(ICA)」のこけら落とし公演となることを願っていたが、結局、建物が完成せず、ハーバードのゼロアローシアターでの公演準備に入る。ニューヨークでは舞踏公演も頻繁だがポストンでは少ないという真摯な観客の前で命がけで踊る「To the White: To the Sky」という作品は、天の神の怒りとシバシバの中に生きる北の人々の凄まじさを舞台に映し出したものだった。スタンディング・オベーションでの喝采だった。アメリカでは受けないかもしれないと思っていた静謐さの中での踊りと繊細な狂気が評価されたのが嬉しかった。

次の日、精鋭三名とポストン日本協会スタッフを載せた車は、一路、西へ、高速道路をアムハーストへとひた走る。両側の景色や建物の風情、牧舎のシルエット、その全てがそのまま「北海道」だった。まったく、クラーク博士は自分の郷土を北海道に再現しようとしたに違いない。マサチューセッツ大学のポーカー・オーデトリウムは、壇上でつい



さっきまで初代学長就任演説が行われていたかのような古式ゆかしい巨大なホールだった。100年以上の歴史が刻まれた楽屋からの狭い階段、その床板を全身白塗りの裸足で静かに踏みしめながら舞台へ登っていく…。

二人の舞踏手が舞台上で崩れ落ち、無音となり、踊りは終わった。そこにスタンディング・オベーションでの絶賛の拍手が始まった。ため息が出るほどに美しい照明の下で踊って幸せただただだけではなく、大きくて暖かい拍手がいつまでも続く。アムハースト公演を支援してくれたインド舞踊の大学教授が泣きながら楽屋にやってくるまでみんなで抱き合った。偶成天は、南の島、本州などでの公演は少ない。できれば北の風の通っているところで踊りたいと願って10年間踊ってきたが、マサチューセッツ公演はまるで故郷での里帰り公演のように思えた。公演と移動、大学でのレクチャー2回、舞踏レッスン4回というハードな日程を続けてきた身体が一挙に緩んだ至福の時だった。

ボストンに戻りユニオン・オイスター・ハウスでささやかに打ち上げ牡蠣パーティとなる。チェリー・ストーン貝もいただく。雷が電気であることを証明したベンジャミン・フランクリンの墓地にふらりと迷い込む。ロブスターの赤い小さな



縫いぐるみをおみやげ用に買う。公演前後はいつも忙しく、観光らしいことがなかなかできないのだが、ありがたいことだ。

ボストン日本協会の尽力もあって、公演打ち上げの公式パーティとしてボストンの日本総領事館に招待される。東山魁夷の茫々とした緑の色づかいが玄関ホールを飾る中、日本通のマサチューセッツ人が三々五々語り歩む。公演のことを手始めにボストンや日本や北海道の話に花が咲く。衣装の色とデザイン

ンに関心がある竹内実花はボストン美術館の浮世絵を見る暇がないのを残念がる。日本語と英語とたまにロシア語も入り乱れての文化談義が続く。北海道の開拓時代、サトポロの土地でも北海道人とマサチューセッツ人はこうして語り合っていたに違いない。歴史の深みと今回の舞踏イベントの不思議な縁に思いを馳せながら、ボストンの初冬の夜が深まっていった。

\* 森田一踏は葛西俊治のステージネームです。

#### <ご紹介>

暗黒舞踏「偶成天」は、舞踏家の森田一踏（本名：札幌学院大学教授 葛西 俊治）・竹内実花両氏によって1996年に結成された札幌の前衛的な舞踊集団です。

道内での継続的な公演及びワークショップ、さらに1998年からのアメリカ・カナダ・ドイツ・ポーランド・スペイン・ロシア・ウクライナなどの海外公演により、この10年間の活動実績は、世界的に高く評価されています。その前衛的な舞踏の芸術性とあわせて深層心理に働きかけるダンスセラピーの芸術療法が注目されています。

この度のマサチューセッツ州における舞踏公演・ワークショップ・講演を通しての「舞踏によるアートセラピー」の実践と理論的指導2006年11月7日～10日も、大成功を収めています。北海道とマサチューセッツ州の文化交流活動にも大きく貢献されました。

## 2007年 アメリカ西海岸親善訪問の旅 参加者募集要項

北海道を知る歴史発見の旅シリーズ海外編 - ラナルド・マクドナルドの故郷及び札幌市の姉妹都市ポートランド訪問

この度、アメリカ西海岸珠玉の短期ツアーを企画しましたので、ご案内いたします。ハイライトは、札幌市の姉妹都市ポートランド市表敬訪問と北海道と歴史的縁の深いアストリア・バンクーバー市訪問交流です。最近の空港税・燃油サーチャージ等の高騰もありますが、ほとんどフリープランの格安のツアーとは違う、濃密な内容を充分吟味して実施しますので、皆様の多数のご参加をお待ちしております。

1. 期日・日程 2007年10月16日(火)～21日(日) (6日間)
2. 訪問地 ワシントン州(シアトル) オレゴン州(アストリア・バンクーバー・ポートランド)  
ネヴァダ州(ラスベガス)
3. この企画の特色 <詳細日程は現在調整中です>
  - (1) エメラルドシティー「シアトル」では
    - ・世界最大の航空機メーカー「ボーイング社」の工場見学(シアトルの北約50キロのエベレット)
    - ・シアトルのランドマーク「スペースニードル(地上150m)」からの360度展望、パイクマーケットプレイス、スターバックス1号店、
    - ・マイクロソフト社の「コンピューター博物館」見学
    - ・他に、イチローの「シアトルマリナーズとセーフコフィールド」など、シアトル市内見学を検討中です。
  - (2) 日本最初の英語教師ラナルド・マクドナルドの故郷「アストリア」「バンクーバー」訪問交流
    - ー 鎖国の幕末期、焼尻・利尻島に上陸したラナルド・マクドナルドは、宗谷・松前を経て長崎送りとなりますが、幕府の英語教師となり、ペリー来航時の通訳森山栄之助らに英語を教えた功績が高く評価されています。
    - ー「米国マクドナルド友の会」のジム・マックフォード会長と面会し、マクドナルドゆかりの地や「三吉顕彰記念石碑」なども案内していただきます。
  - (3) ローズシティー「ポートランド」では
    - ・札幌市の姉妹都市(1959～)ですので、市長を表敬訪問をします。
    - ・ポートランド最古の大公園、有名なワシントンパークのバラ園・日本庭園を見学します。
    - ・また、ウィラメット川のディナークルーズも企画しています。
  - (4) 砂漠の不夜城「ラスベガス」では、(華やかなショー・ゴージャスな夜景・・・など)
4. 経費 旅行費用 280,000円程度(募集人員15名) (空港税・燃油サーチャージ等約30,000円を含む)
  - (1) ご希望により一人部屋を使用される場合は追加料金を申し受けます。
  - (2) 渡航手続き取り扱い料金は別途かかります。
  - 他に共通経費5,000円を集めさせていただきます。なお、非会員の場合は、できれば当協会に入会していただきます。(年会費 一般3,000円・学生1,500円)
5. 日程表・参加申込書 お問い合わせいただいた方には、正式書類をお送りいたします。 **現在確定作業中です**
6. 申込期限 別紙の参加申込書により、2007年9月18日(火)までに事務局にお申込みください。また、申込み金20,000円と共通経費5,000円(非会員の方は年会費 一般3,000円・学生1,500円)をお振込みください。

お問い合わせ 申込書送付先	〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目 道庁別館12階 北海道・マサチューセッツ協会 事務局 TEL (011) 231-3392 FAX (011) 231-3666
------------------	--

## 2007年 アメリカ西海岸親善訪問の旅 日程表 (案)

(シアトル・アストリア・バンクーバー・ポートランド・ラスベガス)

2007.3.6現在

日	月/日/曜	発着地/滞在地	発着時間	交通機関	行 程	朝	昼	夕
1	10月16日 (火)	新千歳空港 発 ソウル空港 着 ソウル空港 発 シアトル 着 エバレット シアトル	12:00 14:05 17:05 18:25 12:05 午後 夜	KE333  KE025 専用バス	新千歳空港に集合後、空港内で結団式(顔合せ) 国際線にてソウルへ  空路シアトルへ シアトル市内観光(昼食) バスにてエバレットへ(ボーイング社工場見学) ・マイクロソフト社「コンピューター博物館」 ・スペースニードル、スターバックス1号店 他 (シアトル泊)		×	○
2	10月17日 (水)	シアトル アストリア バンクーバー ポートランド	8:30	専用バス	シアトル発→ アストリア・バンクーバー (マクドナルド顕彰記念碑・三吉顕彰記念石碑他) →ポートランドへ (ポートランド泊)		○	○
3	10月18日 (木)	ポートランド	午前 午後 夜	専用バス	姉妹都市ポートランド市長表敬訪問 ポートランド市内観光 (ワシントンパークバラ園・日本庭園 他) OP デイナークルーズ (ポートランド泊)		○	△
4	10月19日 (金)	ポートランド 発 ラスベガス 着	9:55 12:03 22:00頃	UA*** 専用バス	空路、ラスベガスへ ラスベガス観光(フリータイム) 空港へ		○	×
5	10月20日 (土)	ラスベガス 発	00:50	KE010	空路、国際線にてソウルへ(所要時間約13時間) (機内泊)		○	機
6	10月21日 (日)	ソウル空港 着 ソウル空港 発 新千歳空港 着	6:00 10:10 12:55	KE010 KE765	国際線にて札幌へ 到着後、解散	機内	機内	

\*東京からご参加の場合は、成田→ソウル便について別途ご相談下さい

..... ( 1頁のままコピーして、切り取らないでFAXしてください ) .....

## 2007年 アメリカ西海岸親善訪問の旅 (仮)参加申込書

(シアトル・アストリア・バンクーバー・ポートランド・ラスベガス)

フリガナ		性別	年齢	職業
氏名		男・女		
住所	〒(      )			
TEL		FAX		

\*ご連絡お待ちしております。お問合せいただいた方に正式の「募集要項・日程表・参加申込書」をお送りいたします。 ( 北海道・マサチューセッツ協会 TEL011-231-3392 FAX011-231-3666 )

## 事務局短信

### マサチューセッツ州新知事にデヴァル・パトリック氏が就任

昨年、2006年11月の知事選で新しいマサチューセッツ州知事が決まりました。ミット・ロムニー氏(59歳・共和党・任期2003,1～2006,12)に変わり、デヴァル・パトリック氏(50歳・民主党)が、2007年1月4日に就任されました。パトリック氏は、イリノイ州シカゴ出身。1978年ハーバード・カレッジを首席で卒業、1982年ハーバード・ロースクール卒業(法学博士)。ボストンの法律事務所を経て、1994年クリントン大統領の公民権担当司法長官補佐。その後コカ・コーラ社相談役・事務部長、アメリカエスト社管轄企業理事を歴任しています。今後のご活躍が期待されます。また北海道とマサチューセッツ州の交流でもお世話になります。

### 「W・S・クラーク」伝記の著者、ジョン・M・マキ先生ご逝去

マサチューセッツ州立大学名誉教授ジョン・M・マキ氏が、去る2006年12月7日97歳で逝去されました。氏は、ワシントン州出身。1936年ワシントン大学卒(英文学修士号)。1948年ハーバード大学卒業(政治学博士)。第二次世界大戦中は、軍の海外放送情報局の仕事をされ、終戦直後は、GHQのスタッフとして日本占領政策の仕事に就き、日本国憲法の起草にも関わっています。1948年からワシントン大学、1966年からマサチューセッツ州立大学アマースト校勤務。その間、特に、アジア研究プログラムの設立や北海道大学との姉妹提携にも尽力されて、1976年北海道大学名誉法学博士号、1983年昭和天皇の叙勲、マサチューセッツ州立大学学長からの勲章も受けています。故人の希望により葬儀は行われませんでした。なお、詳細な伝記「W・S・クラーク—その栄光と挫折—」(高久真一訳)も執筆され、北海道とマサチューセッツ州との姉妹提携・周年事業の親善交流などでは大変お世話になりました。ここに謹んで、ジョン・マキ先生のご冥福をお祈り申し上げます。

### 在ボストン日本国総領事館の人事異動について

在ボストン日本国総領事館経済担当領事の人事異動について、「HOMAS」No.49(2006,12,1発行)では、大久保徹夫氏の後任者をお知らせできませんでしたが、昨年11月30日、町田克己(まちだかつみ)氏が経済担当領事として着任されました。氏は日本貿易振興会(ジェトロ)入社後、1977年～1994年の間、語学研修も含めて合計10年間韓国ソウル駐在。1998年～2001年貿易情報センター所長(広島)などを歴任され、この度、日本貿易振興機構より外務省に転出、ボストンに着任されました。これまで、主に製造業裾野産業育成指導や、円借を含む開発プロジェクトなど途上国協力事業にご活躍されました。今後、北海道とマサチューセッツ州の交流事業でお世話になると思います。

### 2007 コンコードカーライル高校プラスバンド107名(生徒90名・先生父母17名)来道予定(10日間)

Dr.カーティンを代表とするコンコードカーライル高校プラスバンドの一行107名が、4月10日(火)来札。知事表敬訪問、札幌白石高校交流行事・合同練習・ホームステイ・kitara合同演奏会<12日午後>などを予定しています。他に時計台・札幌ドーム・北海道開拓記念館・同開拓の村・サッポロファクトリーなどを見学します。札幌に5日間滞在後、姉妹提携の七飯町での交流行事・ホームステイ・演奏会・観光などがあり、19日(木)離道の予定です。これまで、1998年(平成10年)4月、2004年(平成16年)4月に来道。今回は3回目です。又2003年(平成15年)1月、札幌白石高校プラスバンド一行が訪米しボストンシンフォニーホールで合同演奏会実施。

### 寄贈図書のご紹介・・・ボストンの増淵先生から若者へのすばらしいメッセージをいただきました。

「世界に羽ばたけ！若人よー米国マサチューセッツ工科大学名誉教授のチャレンジ人生」(増淵興一著・成山堂書店・定価2,100円)。先生は、1924年(大13)生、小樽市出身。東京帝大第一工学部(船舶工学科)卒。工学博士。1968年からMIT勤務、現在名誉教授。ご専門以外では、ボストン日本人会会長・ボストン日本語学校長などを歴任されています。当協会もお世話になりました。増淵先生！札幌(小樽)へのお出でをお待ちしています。

### 寄贈図書のご紹介「永遠の友ーピーボディ・エセックス博物館と日本」(関直彦著・星雲社・定価1523円)。

関直彦氏は、凸版印刷株式会社入社後、17年間海外勤務。本書には、マサチューセッツ州セーラムにあるアメリカ最古の民族・海洋博物館「ピーボディ・エセックス博物館」に関することが余すところなく詳述されています。氏は、現在、有限会社リングガスト代表取締役。日本ボストン会幹事。北海道・マサチューセッツ協会会員。

### 新入会員紹介(2006年12月1日以降) <個人会員>

大久保 徹夫 新井 ちづ子 池田 久美子

